

新しい日本、平和な日本へ

キーワード エネルギーの変遷、エネルギーと生活との関わり、高度経済成長、環境問題、エネルギー消費量の変化

エネルギー教育の視点（目標）

この単元では、戦後の日本が国際社会に復帰し、人々の工夫や努力によって生活が豊かになっていった現代について学習する。その中で、エネルギー利用は歴史とともに変化し、特に戦後は急速にその利用における技術が発達し、消費量も増加していったことなどに触れる。

単元の流れ（7時間）

1. 戦争が終わった後の社会の変化について疑問を出し合い、学習問題を作る。(1時間)
2. 各種資料から、日本が民主的な改革と平和主義的な日本国憲法を制定することにより、新しい国として出発したことを読み取って理解する。(1時間)
3. 資料や副教材から、日本が国際社会に復帰することができたこと、産業が復興しエネルギーの利用や国民生活に変化が見られたことを理解する。(1時間・本時)

【目標】

資料や副教材から必要な情報を集め、日本の国際社会への復帰やエネルギー利用の変化が国民生活を向上させたことを理解する。

4. 資料から、東京オリンピック開幕に向けてさまざまな産業が発展し、国民生活が豊かになったかげで、公害などの環境問題が生まれ、大きな問題となっていたことを理解する。(1時間)
5. 第二次世界大戦後から現在まで、世界各国や日本が抱える問題点や解決のために世界が協力していることについて調べ、これからの日本について考える。(1時間)
6. 日本が歩んできた歴史と改善点を整理し、これからのどのような国をめざしていけばよいか、自分との関わりの中で考える。(1時間)
7. 調べた歴史的現象を基に、日本の政治や国民生活の変化、日本がどのような国際的役割を果たしてきたかを考え、表現する。(1時間)

板書例

戦後の日本はどのように成長していったのだろう。

◎世界と日本の動き

- サンフランシスコ平和条約→48か国と平和条約を結んだ
- 世界平和のための機関→国際連合 日本→1956年に加盟
- アジアの国々の独立
- 朝鮮戦争 ●水爆実験

◎日本の暮らしの変化

- エネルギーの変化 石炭→石油 交通機関や火力発電の燃料 など
- 工業製品を生産→海外へ輸出
- 家庭用電気製品のふきゅう
- エネルギー利用に変化→国民生活の向上

まとめ

国際社会に復帰した日本は、アメリカの協力や国民の努力によって経済の発展をとげ、人々のくらしは豊かになった。

	本時の流れ	指導のポイント
導入	1. 写真資料から予想を出し合い、本時のめあてをつかむ。(2分) ・サンフランシスコ平和条約に調印する吉田茂の写真を見て、何をしているか予想する。 ・戦後の日本はどのようにして成長していったのだろう。	1. ・写真資料からわかることを自由に発言させ、本時への意欲を高める。
	2. 日本が国際社会復帰を果たすまでの世界の動きを調べる。(8分) ・アジアの国々の独立や朝鮮戦争、水爆実験など、戦後に起こった出来事をまとめる。 ・国際連合への加盟が認められたことをまとめる。	2. ・資料からわかることをワークシートに記入させる。 ・国際連合について、資料を用いて詳しく説明する。
	3. 国際社会復帰後の日本のようすについて調べる。(30分) ・㊦ P.7～8を読み取り、経済の成長とエネルギー利用の変化との関連や、電気製品の広まりによって、国民生活が豊かになっていったことをまとめる。 ・㊦ P.35を読み取り、時代によって使われているエネルギーの割合の変化についてまとめる。	3. ・個人で記入した後で、ペアで共有させる。見つけれなかった気付きをメモさせる。 ・第二次世界大戦前と後のエネルギー利用の違いについて(石炭→石油)確認させる。 ・朝鮮戦争がきっかけで、特需が起きたことを知らせる。 ・石油の利用が、高度経済成長を支えた、欠かせないエネルギーとなったことを確認させる。 ・第二次世界大戦後の経済の発展とエネルギーの変化を、家庭用電気製品の変化や機能の向上と関連付けて考えさせる。
展開	4. 学習を振り返る。(5分) ・本時の感想を書き、発表する。	5. 本時の振り返りを発表させ、本時で学習した感想を共有させる。
	まとめ	

本時の評価：【知識・技能】

資料や副教材から必要な情報を集め、日本の国際社会への復帰やエネルギー利用の変化が国民生活を向上させたことを理解している。(発言・ワークシート)